



学校だより

松葉小HP



11月号 No. 7
令和7年10月31日
台東区立松葉小学校
校長 松尾 敦
Tel 3841-2627

意欲的に運動に取り組む児童の育成

校長 松尾 敦

つい先日まで「猛暑日」「真夏日」という言葉が身の回りにあふれていましたが、急に肌寒くなりました。日本の気温を30年前と比べると「夏」が3週間長くなっており、その分、春と秋が短くなって「二季化」が進んでいるという新聞記事を読みました。季節感が失われていくのを肌身で実感する今日この頃です。

さて、本号では本校が目指す「意欲的に運動に取り組む児童の育成」についてご紹介します。本校は「令和7、8年度 台東区教育委員会研究協力学校」に指定され、体育科の指導法の工夫について研究しています。8年度には研究発表会を開催し、その成果を区内全体に広めていく責任を負っています。そのため、4月より日本体育大学教授 白旗和也先生を定期的にお招きし、授業研究を中心に研究を進めています。白旗先生は、平成20年から文部科学省スポーツ青少年局教科調査官を務められました。また、日本体育学会や日本幼少児健康教育学会など数多くの研究会でご活躍されてきた方です。NHK Eテレ「はりきり体育ノ介」の監修をされている方でもあります。

コロナ禍の頃「密を避ける」ために身体接触のある運動は一時的に行われなくなりました。当時は友達同士もみくちやになって遊ぶことも減ってしまいました。幼稚園、保育園時代に水遊びを経験することができなかった子供が今、小学生になっています。文部科学大臣の諮問機関に中央教育審議会（略称：中教審）があります。ここでは学識経験者が中心となり、教育や芸術、スポーツなどに関する答申や意見を述べていますが、平成の早い時期から「積極的に運動する子とそうでない子の二極化が進んでいる」「昭和の終わり頃と比較して体力水準が低い」ことが課題であると指摘されてきました。その上で令和のコロナ禍でしたので、今の松葉小の子供たちにも大きな影響が及んでいることは間違いありません。

本校教員は、松葉小の子供たちにもっと体力を付けてほしいと願っています。そして小学校の体育授業を通して、生涯にわたって運動やスポーツに親しむための基礎を築くことができたらよいと考えています。そのために、体育授業において子供たちが「運動が楽しい」「体育が楽しい」と思えるような教師の行動について、また、正しい知識や技能を楽しく身に付けていくための手立てについて、授業を通して検証し、研究を深めているところです。



左の写真と中央の写真は、全教員で6年体育授業「走り高跳び」を観察し、児童の様子や教師の行動、知識や技能を身に付けるための手立てが有効であるかどうか検証している様子です。右の写真は、授業後の研究協議会で授業のよさや改善点を伝え合ったり、白旗先生からご指導をいただいたりしている様子です。

本校の研究については、学校ホームページのトップページ「校内研究」タブより詳しくご覧いただくことができます。